

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 3270101383 |
| 法人名 | 有限会社 コナン |
| 事業所名 | グループホーム大森の家 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 11 月 27 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 1 月 13 日 |
| 評価機関名 | 株式会社 ワールド測量設計 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 1日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|--------------|
| 事業所番号 | 3270101383 | | |
| 法人名 | 有限会社 コナン | | |
| 事業所名 | グループホーム大森の家 | | |
| 所在地 | 島根県松江市宍道町上来待204番地4 (電話) 0852-66-7020 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 ワールド測量設計 | | |
| 所在地 | 出雲市荻苅町274-2 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年 11月 27日 | 評価確定日 | 平成21年 1月 13日 |

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 18 年 3 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 21 人 | 常勤12人, 非常勤9人, 常勤換算5.80人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造瓦葺平屋 造り |
| | 1階建ての ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|---------------|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 水道光熱費 21,000円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,300 円 | |

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|------|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 4名 | 女性 | 14名 |
| 要介護1 | 4名 | 要介護2 | 1名 | | |
| 要介護3 | 9名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 87.5歳 | 最低 | 79歳 | 最高 | 100歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------|
| 協力医療機関名 | 来待診療所、田中医院、昭和歯科医院 |
|---------|-------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム全体が豊かな自然に囲まれている。ホームからは山や田んぼをパノラマで見渡す事が出来、開放的な広い中庭からは、昔懐かしく心むせ雰囲気を感じることが出来る。高台にある為、近所の方と日常的なふれあいが困難な環境ではあるが、地区の行事に出かけたり、作品を出品をしたり、実習生の受け入れや、ボランティアの申し出も多く、交流が盛んである。又、町と協力して「認知症にやさしい町づくり」に取り組んでおり、毎年、認知症サポーター養成講習会の会場となり、交流を深めている。今年度は、管理者をはじめとし、職員の交代が目立つ1年であった。その都度、職員の補充が成されているが、利用者や家族の不安を和らげるケア、そして新たな管理者の下、業務の見直し、スタッフの目線あわせ等が急がれるところである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>書式の見直しなど、改善課題について、職員で話し合い、取り組みかけていたところだったが、管理者をはじめ職員の交代が多かった為、改めて見直しや取り組みが期待されることである。</p> |
| | <p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、パートから調理の担当職員まで、全職員に評価票を配布し、一人一人が全項目を、自分のケアをふりかえりながら記入した。全職員が各自100項目を記入された事で、項目を理解し、日常の見落としやすいサービスの点検になった。大変意義のある評価であったといえる。</p> |
| 重点項目 | <p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催予定になっているが、4月と6月の2回は管理者の交代があり中止になっていた。8月に再開してからは、定期的に行われ、積極的な情報提供や意見交換がされている。職員の名札使用や、来待小学校との交流再開について要望があり、検討をしている。</p> |
| 重点項目 | <p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、広報誌「大森かわら版」や請求書、出納伝票と一緒に、管理者からのおたよりや、居室担当職員が本人の生活の様子を手書きした手紙を同封している。温かみを感じ、家族からも喜ばれている。必要時、電話をかけた時、家族からご意見要望があった場合には、家庭訪問をしている。毎月の報告や、新規職員の紹介はされているのだが、職員の退職やユニット間の異動についての報告も、家族の不安が無いようお願いしたい。又、開設当初から設立されている家族会が、自主的な活動を開始されるように、家族間の交流を深める企画を工夫して頂きたい。</p> |
| 重点項目 | <p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>高台にある為、近所の方と日常的なふれあいが困難な環境ではあるが、自治会に加入し、地区の収穫祭や公民館祭りに出かけたり、作品を出品したり、実習生の受け入れや、小学生との交流、「いたわりの会」などボランティアの申し出も多く、交流が盛んである。幼稚園児が散歩の途中で立ち寄られる事もある。非常災害時には地域との協力が不可欠であり、運営推進会議や広報誌などでも、継続して地域への協力を呼びかけて頂きたい。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「キャッチフレーズ」「基本理念」「ケア理念」の3本柱で事業所独自の理念を表現している。ケア理念には、地域密着型としての役割を加える等、何度か作り直し、誰もが理解できるものになっている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日朝礼の時に唱和し、心に刻んで、その日のケアにあたっている。明るく楽しい温かい家庭的な環境をつくり、その人らしいあたりまえの暮らしに近づくように支えている。入所時には、利用者や家族にも理念を伝え、広報誌にキャッチフレーズを載せる等、理解を深めるよう努めている。 | ○ | 管理者をはじめ、職員の交代があり、現在のメンバーで、改めて理念やケアの方向性を確認して頂きたい。ホーム内に理念が掲示されているが、家庭的で目を引くような掲示方法を工夫して頂きたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 高台にある為、近所の方と日常的なふれあいが困難な環境ではあるが、自治会に加入し、地区の収穫祭や公民館祭りに出かけたり、作品を出品をしたり、実習生の受け入れや、小学生や「いたわりの会」などボランティアの申し出も多く、交流が盛んである。幼稚園児が散歩の途中で立ち寄られる事もある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の結果は運営推進会議でも報告し、話し合いをされている。今回の自己評価は、パートから調理の担当職員まで、全職員に評価票を配布し、一人一人が全項目を、自分のケアをふりかえりながら記入した。それをもとにユニット毎に意見あわせをした。 | | 全職員が各自100項目を記入された事で、項目を理解し、日常の見落としやすいサービスの点検になっている。新任職員もあり、完成した全体の自己評価や今回の評価結果を使って新スタッフで話し合わせ、改めて目線合わせをして頂きたい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催予定になっているが、4月と6月の2回は管理者交代があり中止になっていた。8月に再開してからは、定期的に行われ、積極的な情報提供や意見交換がされている。職員の名札使用や、来待小学校との交流再開について要望があり、検討をしている。 | ○ | 職員の名札はケアの時に利用者の顔に当たったり、邪魔になる為、検討中である。職員の交代が続いたので、要望の意図を汲み取り、職員の顔と名前がわかるようにホーム内に掲示する等、他の方法も検討して頂きたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町と協力して「認知症にやさしい町づくり」に取り組んでおり、毎年、認知症サポーター養成講習会の会場となり、交流を深めている。今年は講師を呼んで認知症高齢者の声に学ぶコミュニケーションを学んだ。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、広報誌「大森かわら版」や請求書、出納伝票と一緒に、管理者からのおたよりや、居室担当職員が本人の生活の様子を手書きした手紙を同封している。温かみを感じ、家族からも喜ばれている。必要時、電話をかけた後、家族からご意見要望があった場合には、家庭訪問をしている。 | ○ | 毎月の報告や、新規職員の紹介はされているのだが、職員の退職やユニット間の異動についての報告も、お便りを使って、事前に本人があいさつする等、家族の不安が無いようお願いしたい。今回の管理者交代については、12月の運営推進会議で報告予定である。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 開設当初から、家族会を設立しているが、年に1度、決算報告の時に集まる位で自主的な活動はみられない。運営推進会議は交代ではなく、全利用者の家庭へ案内しているが、家族も高齢化し、同じ顔ぶれにならざるを得ない状況である。 | ○ | 家族会として月1,000円の積み立てをしているが、実際は利用者の外出時のバス代などに使われており、本来の目的と異なる感がある。家族を含めた食事会など、参加されやすい企画を練り、家族間の交流を深め、自主的な活動を促して頂きたい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 今年度は、管理者をはじめとし、職員の交代が目立つ1年であった。2ユニットで担当職員が決まっているが、交代しながら全職員が利用者や馴染みの関係を作っている。いまのところ利用者に大きなダメージはみられない。利用者同士もユニット間の交流があり、気の合う方と誘いあって散歩される姿もみられた。 | ○ | 利用者は少なからず不安を持たれ、生活への影響もあると思われる。1対1でゆっくり話せる時間を持つなど、安心して穏やかに過ごされるような関わりをお願いしたい。又、職員の定着に向けた検討や、離職の場合の十分な引継ぎをお願いしたい。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各種研修に交代で参加し、報告をすることで、全職員が学びを共有している。しかし、今年は職員の交代が多く、最近では休みをとって外部研修に出かけることは難しい状態である。 | ○ | 新任職員も多く、なんでも相談できるシステム作りをお願いする。朝礼やユニットミーティングの時間を使って、短時間でも構わないのでケース検討や、勉強会などを計画して頂きたい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 開設時には、他の事業所の見学をしたり、交流があったが、現在はしていない。毎月、地域の医療福祉連絡会に管理者が参加しているが、1ヶ月前に管理者の急な交代があった為、職員がまだ、把握できていない状態である。 | ○ | 新管理者の下で、同業者との新たな交流を期待する。新規職員も多く、交換研修を行うなどして親睦を深め、情報交換やケアの見直しの機会として頂きたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に面談や、家族や担当のケアマネ等と一緒に見学して頂いている。慣れるまで外泊の形をとるなど、徐々に馴染める工夫をしている。又、併設の通所サービスから移行された方もある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 高齢で身体機能の低下や認知度の高い方が多く、安全に本人の出来る事が少なくなってきた。その中でも、台拭きや、畑の草取り等手伝って下さったり、職員と一緒に作品作りを楽しむなど利用者の力を発揮できる場面作りを工夫している。何気ない利用者の言葉で職員が励まされる事もある。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には家族から、暮らしの情報（私の暮らし方シート）を記入してもらっている。担当だったケアマネや主治医からの情報提供も頂き、これまでの生活を踏まえながら、日常の会話や仕草、表情から思いや意思の把握に努めている。又、毎月、モニタリングシートを用い、暮らしを把握するように書式を見直した。 | ○ | アセスメントやモニタリングの書式を検討している。全職員で話し合い、書式の見直しを行うことで、一部の職員が交代しても戸惑うことのないようなシステム作りをして頂きたい。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 居室担当者と計画作成担当者が中心となってプランを作成し、ユニットカンファレンスや全体会で、他の職員の意見を聞いている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 日々、ケアプランのチェック項目を確認する方法にしている。3ヶ月に1回プランの見直しをしているが、毎月、ユニットミーティングで方向性を話し合っており、状態に変化があった場合は、その都度見直しをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 定期受診の付き添いや送迎は家族にお願いしているが、家族や本人の状況によっては職員が行っている。他施設に移られた方の面会や、入院時にはお見舞いに出かけている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医を決めているが、多くは、近くの協力医療機関にかかられて、月1回往診して頂き、幅広く相談に応じてもらっている。従来のかかり医に往診してもらわれる方や、専門医を受診される方もある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 近くの診療所医師と24時間体制で連携体制にある。管理者は看護職で、5分で駆けつけられる距離に住んでいる。併設の通所サービスにも看護職員がおり、協力出来る体制もある。看取りの希望があり、話し合いにより受ける体制にあったが、最終的には他施設へ入所となられたケースがあった。 | ○ | 職員体制や業務が変わっており、新体制において、改めて重度化や終末期の対応について話し合い、全職員で方針を共有して頂きたい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 広報紙への写真の掲載は、その都度、家族の了承を得ている。また、全職員が言葉遣い評価票を用いて、自己評価を行うなど、言葉遣いの見直しや指導をしている。 | ○ | 年配者を敬う気持ちをもった言葉掛けを心掛けて頂きたい。 |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 2ヶ月に1度、移動理美容室が来られ、整髪する方や、馴染みの美容院に出かけられる方もある。2名の方は自分でお小遣いを管理し、買い物やされている。居室で眠れない方は、ホールの畳で寝て頂いたり、テーブルの高さが合わない方には紙バックで手作りした補助椅子を重ね、皆と一緒に座れる等、その方にあった暮らしが出来るように工夫されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理専門の職員が両ユニット分を一緒に料理している。利用者の方は出来る範囲で準備や片づけを手伝っている。庭の畑で収穫した野菜も使われている。やわらかく食べやすく調理されており、利用者の殆どの方が食が良く驚かされた。箸や湯飲み、茶碗は本人用で、自分で選んで決めている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は、希望されれば毎日でも、何時にでも対応しているが、本人の希望で2日に1回のペースの方が多い。年齢や皮膚の状態等も考慮し、その方にあったペースで保清に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 敬老の日、誕生日にはお祝いメニュー、又、お茶の時間にはケーキが出され、入所者の楽しみとなっている。書道やちぎり絵の作品がさりげなく飾られており、公民館祭りに出品もした。地域行事へも体調や気候に配慮しながら参加している。バス遠足では奥出雲の温泉に行き、食事や家族風呂での入浴を楽しまれた。 | | 定期的なボランティアの来所も利用者の楽しみである。今後も地域との交流を深められ、認知症高齢者へのケア、グループホームの啓発に努めて頂きたい。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 高台にあり、歩いて近所への外出は難しいが、気候の良い時は、広い中庭で散歩や外気浴、畑の草取りをしている。職員と一緒に坂を歩かれる方もある。車椅子利用者も多く、ドライブ等で外出を支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかける事の弊害は全職員が理解しているが、常時目が離せない方が数名おられ、玄関は、外からは自由に入れるが、中からはボタンを押さないと自動ドアが開かないようになっている。広く解放的な建物と、広い中庭は自由に出入りされており、閉塞感は感じられない。 | ○ | 出かけられる方は限られているので、日々の状態を把握して対応を検討して頂きたい。自由に出る事が出来ない事は、決して当たり前ではない事を、全職員が常に意識し、日中は玄関がオープンに出来るように努力して頂きたい。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、年2回、利用者も参加しての避難訓練をして、経路確認や消火器の使い方や緊急連絡網の確認をしている。年に1度、職員は応急手当や心配蘇生法の講習も受けている。 | ○ | 災害備蓄の準備、地域との連携は今後の課題となっている。非常災害時には地域との協力が不可欠であり、運営推進会議や広報誌などでも、継続して地域への協力を呼びかけて頂きたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|--|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量や食事量は細かく記録して、水分の不足な方には、トロミをつけたり、好みの物で補っている。 | ○ | 食事は、家庭的で高齢者が食べやすいメニューとなっているが、市の栄養士等と連携し、定期的にアドバイスをもらえる事をお勧めします。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 広い中庭に面した大きな窓からは、のどかな風景が広がり、開放感がある。明るい日差しがさして眩しいくらいだったが、レースのカーテンで職員が調整していた。寒い季節でも適温に調整されており、居心地の良い空間である。庭では利用者が自由に洗濯物を干したり、二人連れで散歩されたりする姿がみられた。中庭には車椅子でも通れるように、後から通路が作られている。 | ○ | 毎朝、利用者と一緒に掃除をされているのだが、トイレや居室の掃除、決められた危険物の管理を見直し、徹底して頂きたい。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には備え付けの家具は無い為、全部屋が持ち込みの家具を使っており、その方の個性が出ている。ベッドを使用される方やマットレスを敷いて寝ている方など自由にされている。 | ○ | 居室は洋間で、床が板の間になっているが、つまづく危険もあり、殆どの部屋が敷物が無かった。ベッド上に居るか、布団をたたんでしまうと、床がむき出しで居場所が無いように思えた。椅子を置いたり、畳を敷く等、日中その方が起きて、くつろげる居室の工夫をご家族と一緒にして頂きたい。 |